

●沿革●

旧日本銀行広島支店は、平成12年(2000年)5月26日に、日本銀行において、「旧日本銀行広島支店の建物が、将来、文化財保護法に基づく国の重要文化財に指定された場合には、広島平和記念都市建設法(※)の適用により、土地及び建物を広島市に無償譲与する。また、それまでの間の措置として、広島市文化財保護条例に基づく広島市指定重要有形文化財に指定された場合には、同じく同法の適用により、広島市に無償貸与する。」という方針を決定されました。その後、平成12年(2000年)7月に、広島市指定重要有形文化財に指定され、令和6年(2024年)2月には、広島原爆遺跡として国の史跡に指定されました。

広島市では、平成13年(2001年)3月から、文化財としての保存・公開をするとともに、広く市民の芸術・文化の発表の場として活用しています。

【※参考 広島平和記念都市建設法(抜粋)】

第1条 この法律は、恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴として、広島市を平和記念都市として建設することを目的とする。

第3条 国及び地方公共団体の関係諸機関は、平和記念都市建設事業が、第1条の目的に果たし重要な意義を持つことを考え、その事業の促進と完成とにできる限りの援助を与えなければならない。



【撮影：林典男 写真提供：広島平和記念資料館】

●入館案内

開館時間 10:00～17:00

(ただし、催し物が開催される日には、開館時間が延長される日があります。)

休館日 12月29日から1月3日

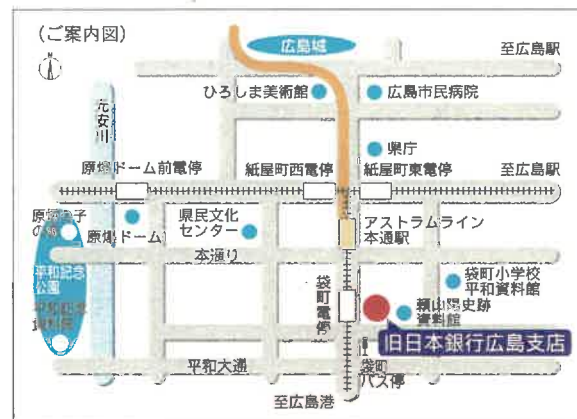
入場料 無料

地下1階展示室

開室時間 10:30～16:30

休室日 月曜日(祝休日の場合はその翌平日)

※休室内でも金庫の扉や格子戸はご覧いただくことができます。



(交通案内)

市内電車：広島駅から宇品行(1番線)で袋町電停下車徒歩1分

市内バス：広島駅から市役所方面行、袋町バス停下車徒歩1分

アストラムライン：本通駅下車、徒歩3分

駐車場はありませんので、近隣の一般駐車場をご利用ください。

SPACE 貸出し利用

館内は文化財として公開をするとともに、市民の芸術文化活動の発表の場として貸出しを行っていますので、ご利用ください。

利用料：無料

ただし、光熱水費は
実費相当額をご負担
いただきます。



申込：利用希望日の6か月前から2週間前までの間に、広島市市民局文化スポーツ部文化振興課で受け付けます。

お問合せ

広島市市民局文化スポーツ部文化振興課

電話：(082) 504-2500 FAX：(082) 504-2066

Eメール：bunka@city.hiroshima.lg.jp



広島市指定重要有形文化財

旧日本銀行
広島支店

●旧日本銀行広島支店の建物の特徴●



【建築当時の写真：提供 清水建設広島支店】

所在地 広島市中区袋町5番21号
竣工時期 昭和11年(1936年)8月
構造/階数 鉄骨鉄筋コンクリート造/3階建・地下1階
設計者/施工者 日本銀行臨時建築部・長野宇平治/清水組

旧日本銀行広島支店の建物は、古典主義的意匠による銀行建築として、広島市の昭和初期を代表する歴史的建築物です。設計は、日本銀行臨時建築部の長野宇平治(1867年～1937年)によるものです。1936年という時代背景もあってか、東京日本橋の本店のような華麗な装飾はなく、清楚であり目立たない外観となっています。古典主義的意匠は、外観正面のギリシア風の柱や彫刻装飾、飾板、1階の天井の蛇腹及び中心飾りに見られます。

1階から2階を貫く大きな吹き抜けの大広間には営業室が設けられ、鉄骨組みの大きなガラス屋根がトップライト(天窓)として架けられていました。吹き抜け空間には角柱が立っていますが、創建当初は現在より豪華な柱頭飾りが施されていました。

また、支店長室の床の寄木張りは当初のまま残っており貴重です。

〈地下1階〉 広島市所蔵資料常設展示 近代広島の歩みと海外移民

近代広島の歴史を写真で解説します。また、全国一の移民送出県である広島からの海外移民について写真や実物資料等で紹介します。

(展示室として金庫を使用しています)

旧日本銀行広島支店



【撮影：林重男 写真提供：広島平和記念資料館】

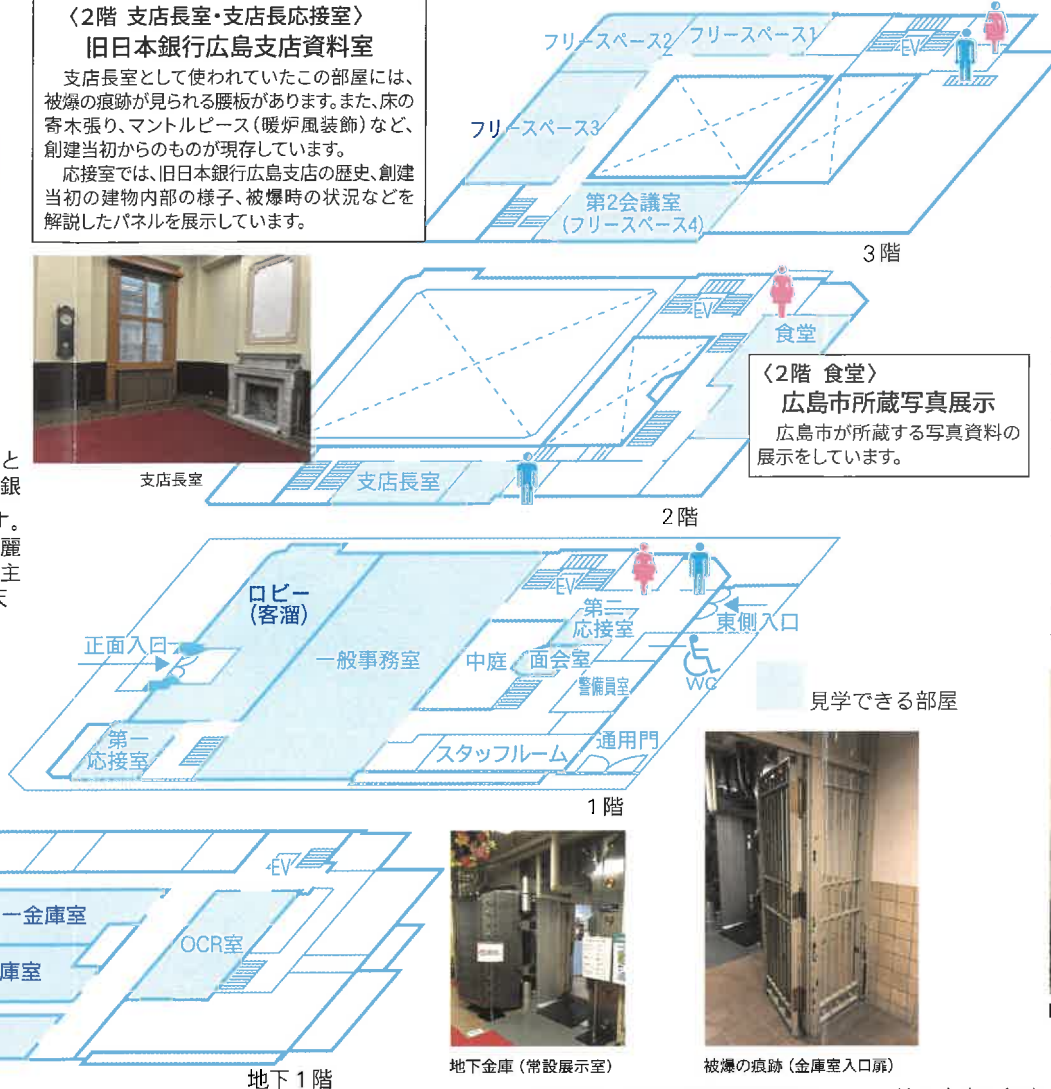
〈2階 支店長室・支店長応接室〉 旧日本銀行広島支店資料室

支店長室として使われていたこの部屋には、被爆の痕跡が見られる腰板があります。また、床の寄木張り、マントルピース(暖炉風装飾)など、創建当初からのものが現存しています。

応接室では、旧日本銀行広島支店の歴史、創建当初の建物内部の様子、被爆時の状況などを解説したパネルを展示しています。



支店長室



●旧日本銀行広島支店の被爆の歴史●

この建物は昭和11年(1936年)、日本銀行広島支店2代目営業所として建てられました。

昭和20年(1945年)8月6日、広島市は、原子爆弾により大きな被害を受けました。日本銀行広島支店は、爆心地から380mという近距離にあったため、爆風により、窓枠やシャッター、欄干などは全て吹き飛ばされました。内部は甚大な被害を受けましたが、非常に堅牢な構造のため、建物の崩壊は免れました。

建物内では、職員18名が被爆し、8名が亡くなられました。

また、出勤途上に被爆した職員も多く、その大半は10代後半から20代前半の女性で、負傷者の看護や再開した銀行での勤務にあたるうち、放射線の影響で亡くなられた方もありました。



【撮影：川本俊雄 提供：川本祥雄 広島平和記念資料館】

地下金庫の無事が確かめられると、8月7日には市内の銀行の代表者が集められ、早くも翌8日から他の11の銀行とともに、この建物を共同で使用して業務を再開しました。トップライト(天窓)のガラス屋根は原爆による爆風で破損していたため、晴れた日は青空がのぞき、雨の日は傘をさしながら業務が続けられ、広島復興を支えました。



【写真提供：日本銀行広島支店】